

村上春樹文学の中国語訳・韓国語訳における「異化」と「帰化」

— 『ノルウェイの森』を中心に

権 慧

一. はじめに

一九八七年九月に刊行された村上春樹の代表作『ノルウェイの森』（以下『森』と略す）はわずか一年で四百万部近くの売り上げを記録し、日本で「村上春樹現象」を引き起こした。その後同作の翻訳本が韓国や中国で大きな人気を集め、東アジア範囲で「村上ブーム」が巻き起った。東アジアにおける村上文学の受容については、藤井省三・東京大学教授の先駆的な研究がある。藤井は台湾、香港、上海、北京四都市における村上文学の流行を論じた後、村上チルドレンの登場や、経済発展、政治状況による村上文学の読者層の形成について論じ、東アジア各国における村上受容の状況を明らかにした¹ほか、村上文学の中国語翻訳における土着化と外国化の問題にも言及しており、中国語訳諸版の比較を行っている²。現在中国では翻訳版本をめぐる単なる直訳か意識かという問題にとどまらず、村上文学の感性や日本文化を如何に伝達するか、そして外国文化に直面する自国文化を如何に保全するか、あるいは変革するべきかという文化論にまで広がっている。一方、韓国では中国ほど翻訳手法に関する議論が行われていないが、同一作に対して多数の翻訳版本が出揃い、読者は好みにより翻訳版本を選べるようになった。現在の東アジア文化界は村上文学という日本発のグローバリゼーションを迎えて自国文化のありようを問い直すという村上文学受容の成熟期に入ったと言えよう。

筆者は拙稿「中韓両国における村上春樹文学翻訳版本の比較研究」³において『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（以下『色彩』と略す）の中韓両国語版を比較し、藤井の村上文学の東アジア受容の四大法則、つまり「時計まわりの法則」、「経済成長踊り場の法則」、「ポスト民主化運動の法則」、「森高羊低の法則」に対し、第五の法則として「異化翻訳化の法

則」を加えることを提起した。これは一九八九年から二〇一三年までの村上文学翻訳史において、帰化から異化へという翻訳方法の顕著な変化が生じていることを論じたものである。本稿では村上の代表作『森』の中国語訳本（紙幅の関係で中国大陸の簡体字訳本のみを対象とする）と韓国語訳本を取り上げ、テキスト第四章ヒロイン緑登場の章を「直訳」、「書き換え」、「訳し漏れ」、「誤訳」に分類し、村上文学翻訳における「異化」と「帰化」との状況について考察したい。

二. 中韓両国における『ノルウェイの森』の受容

1. 中国における『ノルウェイの森』— 林訳『ノルウェイの森』の変遷

『ノルウェイの森』は一九八九年に中国で翻訳・出版され、その後村上文学は中国の読者の注目を浴び、愛読され続け、訳本は百点以上に達し、二〇一二年までに合計四回の村上ブームを引き起こしてきたという⁴。近年では新作出版のたびに大きな話題となり、出版界で激しい版權争奪戦を巻き起こしている。例えば『色彩』（二〇一三）の版權は日本発売の半年後に百万 US ドル以上の高額で新経典文化有限公司が取得し、その中国語版は二〇一三年度新浪中国推薦書のトップ一〇に入り、書き込みサイト「豆瓣網」で好評を得ている。また、その翌年出版された村上の短編小説集『女のいない男たち』（二〇一四）も同じく二〇一五年三月に出版され、発売イベントや翻訳者によるサイン会が催され、多くの村上ファンの注目を引いたという。このような状況からみると、『1Q84』により起きた第四次村上ブーム後、二〇一三年から第五次村上ブームは現在も進行中であると言っても過言ではないだろう。

この四半世紀にわたる村上文学受容史において、その読書市場には大きな変化が生じてきた。二〇〇一年までは版權制度が整っておらず、複数の出版社が村上作品を翻訳・出版していたが、その中では広西省桂林市の漓江出版社を中心に、林少華訳の版本が圧倒的に多かった。二〇〇一年末、上海訳文出版社が正式に村上作品の簡体字版權を取得し、二〇〇九年まで林訳版を独占的に出版した。SOHO 読書チャネルによると同社は二〇一四年末までに合計四〇種類以上の村上作品を出版し、その総発行部数は五八〇万部を超えたという⁵。二〇〇〇年以来、中国は経済成長と

インターネット普及により外来文化に接するチャンスが増え、以前は無条件に受容していた翻訳「外国文化」に対し、現在はより原作に忠実であることを求め始めている。その表現の一つが村上文学の翻訳版本に関する議論なのである。この議論については後述するが、二〇〇五年から盛り上がった林訳をめぐる議論は翻訳者の交代をもたらした。二〇〇九年、北京に位置する新経典文化有限会社がエッセイ集『走ることについて語る時僕の語ること』の簡体字版權を取得し、施小焯訳で出版した。同社はさらに二〇一〇年にも再び激しい版權争奪戦を経て『IQ84』の版權を取得し、その後も二〇一五年一月三日までに『村上雑文集』、『アフター・ダーク』、『色彩…』など合計一三点の村上作品中国語訳版を出版した。その内の一一点は施小焯訳である。上海訳文出版社も負けることなく、『アンダーグラウンド』や『約束の場所』などの旧訳を改版して出版し続けており、二〇一二年には村上春樹エッセイ集全十四巻、二〇一四年には「村上春樹代表的長編小説十部精装本」全一〇巻を林少華訳で出版し、さらに翻訳議論が白熱化する中で林や毛丹青など六人の共訳で短編集『女のいない男たち』（二〇一四年四月）を出版した。これまで林訳は意識などが多いとされてきたが、「長編小説十部精装本」には訳し漏れの補足、四字熟語の平叙文への改訳、外来語などの直訳など大幅な修正が施されている点は興味深い。また、筆者が二〇一三年十二月に施小焯に面会し、「翻訳観」について質問した際、施氏は「やはり逐字翻訳を重視し、できるだけ原文のリズムを再現するよう努めてきた」と回答している。このような最近の翻訳傾向から、近年、特に二〇〇九年以降では意識から直訳への変換が顕著となっている様子が察せられよう。

林少華によると、一九八九年七月に漓江出版社から『森』を出版して以来、『森』の訳本に対し合計七回の改訂を行ったという。『森』の版權が上海訳文出版社へ移った後には同社は『森』の精装版や映画版を刊行し、二〇一四年には新版を出版した。重版のたびに訳者が誤訳訂正、意味補充などの作業を行っていることはすでに指摘されている⁶。本稿では一九八九年漓江版『森』、二〇〇一年訳文版『森』、二〇一四年訳文版『森』を取り上げ、翻訳の変遷を論じたい。まず一九八九年の漓江版『森』の特

徴としては、原作の第六章が二章に分けられて、原作の一章構成が二章構成へと改篇され、また原作には章題は付されていないのに対し、漓江版では章ごとにタイトルが付され、その中には「月夜裸女」や「情海弄潮」などの性的な章題が散見される点である。同作の表紙は「斜めに立って横顔を見せる女性が着物を腰まで脱ぎかけて撫で肩の白い背中を見せるというセミヌード」で飾られており、藤井によれば、当時版元は『森』をほとんどポルノ小説として売り出したという⁷。しかし、その一方原作の一六〇〇字ほどのセックスシーンが削除されている。同書には著名な日本文学研究者李徳純の解説「物欲世界の異化」と林の訳者後書きが付されている。漓江版『森』は中国で最初の村上文学単行本であり、一九九一年一月の時点までに、林同書の累計発行部数は六万五千部（一九八九年七月初版三万部、一九九〇年四月第二版三万五千部）に達したという。

中国のWTO加盟後の二〇〇一年上海訳文出版社が村上春樹文学の簡体字版権を取得し、中国ではやがて全訳版の『森』（林少華訳）が出版された。同作は漓江版では削除されたセックスシーンを復活し、原作の一章構成に戻し、章題は消している。表紙もセミヌード着物女性像からピュアでロマンチックな花柄に変更されるなど、ポルノ風の漓江版とは対照的に上品なイメージをまとっていた。同作には林による解説がつけられ「村上春樹 何以為村上春樹（筆者訳：村上春樹はなぜ村上春樹なのか）」が付されている。

二〇一四年に上海訳文出版社は「村上春樹代表的長編小説十部精裝本」を刊行し、『森』に対して多くの修正を行った。林は序文「永遠的青春風景」で、読者からの質問に答える一方、知人の助けにより原作と対照しながら誤訳、漏れ訳を見つけ修正を行った、と述べている。同訳本は二〇一四年五月に三万部出版され、一〇月には五万部が増刷された。

2. 韓国における『ノルウェイの森』—『喪失の時代』から『ノルウェイの森』への展開

一方、韓国では日本で広範な「村上ブーム」が起きた翌年の一九八八年にはすでに『ノルウェイの森』（韓国・サムジン企画出版社）の翻訳が発売されたが、残念ながら読者の注目を集めることはなかった。翌年文学思

想社が『喪失の時代』という訳題で、新たな翻訳者の柳柳呈による翻訳を出版したところ、「ハルキ旋風」を引き起こし、二十年間ベストセラー・ステディーセラーとして韓国読者に愛読され続けた。韓国には十人以上の村上文学翻訳者があり、著作権制度が整っていなかった一九九五年までは多数の出版社が村上文学の韓国語訳を刊行していた。その後、一九九五年にようやく著作権制度が整い、特に二〇〇〇年以後は文学思想社を中心とする少数出版社寡占期に入り、文学思想社は二〇一二年までに合計四十九点の村上作品を刊行した。二〇一〇年には『IQ84』をめぐる激しい著作権争いが展開され、「문학동네(文学トンネ)」出版社が韓国史上最高の一五億ウォン(約一億一五〇〇万円)で著作権を取得しており、その後は多数の出版社による熾烈な著作権取得競争期に入った。二〇一三年の話題作『色彩…』は日本発売後わずか三ヶ月で韓国語版が出版され、また、同年『文芸春秋』一二月号に掲載の村上短編小説「ドライブ・マイ・カー」の著作権を取得したのは民音社であり、同社の季刊誌『世界の文学』(二〇一三年冬号)が梁億寛訳で掲載した。『女のいない男たち』の韓国語版は日本発売の四ヶ月後に文学トンネより発売され、韓国出版委員会の調査によると、同訳本は五週連続教保文庫やYes24書店の売り上げ総合ランキングの第一位を占めている。二〇一五年九月に刊行された村上春樹のエッセイ『職業としての小説家』も激しい著作権争奪戦を経て、五億ウォン(約五千万円)というエッセイ分野の記録的な金額で現代文学出版社が落札した。このように韓国の「ハルキ旋風」は四半世紀が経った現在でも進行中であることが窺えよう。

翻訳文体は、韓国でも中国と同様、意識から直訳への転換が見られる。村上の代表作『森』を例にとると、最も韓国読者に読まれたとされる『喪失の時代』版には多くの書き換えがあり、当時の同書担当編集者、韓国の「ハルキメッセンジャー」と呼ばれる任洪彬によると「韓国読者たちの好みにあわせるために、翻訳者と編集者が多くの手間をかけた」⁸という。任はこう言いながらも、二〇〇八年に直訳を基本とした『ノルウェイの森』の新版を自ら翻訳している。新訳版では書き換えだけでなく、訳し漏れなどの修正も見られる。また、二〇一三年、文学思想社における『森』の著作権が切れると、『色彩…』を刊行した民音社は同年九月に「世界文学全集」

の一冊として新たに梁億寛訳による『森』を出版した。

韓国国立中央図書館所蔵情報によると、『森』には現在韓国で合計九種類の翻訳版本がある⁹。一九八八年出版社サムジン企画はノ・ビョウシキ訳で『森』を出版し、韓国で最初に紹介された村上春樹作品となったが、前述の通り、同作はあまり注目されなかった。その翌年、成正出版社は『森』の第一章を削除して、『개똥벌레 (蛭)』の訳題に『森』の残りの部分を翻訳出版した。さらに、『森』原作にある村上による後書きも翻訳されていない。周知のように「蛭」は村上の一九八三年作の短編小説にして、『森』の第二・三章の下敷きとなっている。出版社が「蛭」の章から物語を展開し、三十八歳の「僕」という一人称で一七年前の過去を振り返る第一章と作者後書きを省略したことにより、『森』はフラッシュバック的時間構成を失い、単線的な物語展開へと改編されたのである。藤井が指摘するように『森』は高度経済成長期の一九七〇年を低成長期の八七年から回想するという時間構成であるのだが、韓国では一九八八年のソウルオリンピック期の高度経済成長と同時進行の物語として読まれる傾向があったのだろう。しかし韓国で圧倒的人気を博したのは、本文を改編したこの鄭成浩訳版ではなく書名を『喪失の時代』に改題して本文に微調整を行った柳柳呈訳版であった。同訳も鄭訳版と同じ年に正式的に『森』の版權を獲得した文学思想社より刊行された。訳者の柳柳呈（一九九二年～）は当時詩人であり、延世大学の教授として日本文学の権威であった。翻訳を依頼し、出版したところ、突如村上ブーム（韓国では「ハルキブーム」という）が巻き起こった。前述のように同訳は書名の『森』を『喪失の時代』と改題し、章タイトルの加筆や、読みやすくするために段落を分けるなど多くの編集が加えられた。また、『森』は本文に先立ち「多くの祭りのために」が書かれ、あとがきの「この小説は僕の死んでしまった何人かの友人と、生きつづけている何人かの友人に捧げられる」と呼応しているが、『喪失』にはその文が翻訳されておらず、その変わりでもあるように村上春樹が韓国読者に向けて書いたメッセージ「人が人を愛する意味を韓国の読者のみなさんと一緒に考えたい」が付された。この内容を要約すると、「六〇年代から七〇年代における日本社会はあらゆるものがぐらぐらと大きく揺れて吐き気のす

る社会であり、すべてのものが変わっていき、われわれはその変動をこの手につかみ取れると思いついでいた。そこには理想があった。人が真に人を愛するということは自我の重さに対立すると同時に、外部社会の重さに正面で対立することでもある。悲しいけれど、誰でもその戦いで生き残られるわけではない。そういう一つの時代を書いてみたかった」という高度経済成長期における「喪失」を物語るメッセージであった。『喪失の時代』は出版以後、二十年間ベストセラーにランクインし続け、「出版界の奇跡」と呼ばれている。その後も四つの出版社がそれぞれ翻訳者を指定して『森』を刊行していたが、どれも正式に版權を得ていない海賊版であり、『喪失の時代』のようなステディーセラーになることなく、やがて出版界から姿を消した。文学思想社の『喪失の時代』は一九八九年六月に第一刷が刊行され、現在までの発行部数は不明であるが、三度も改版を経て、二〇一〇年七月二〇日まで合計一九二回増刷されたことがわかる。最も興味深いことは、同作が版を重ねるたびに修正を行うことである。第一版には章題がなかったが、第三版になって章題——例えば「心の病を患う直子の失踪（第五章）」、「緑とピューリタンのように過ごした夜（第九章）」——が付され、ワタナベと二人の女性の恋愛問題の霊的側面を強調するものではあるまいか。これは近代恋愛文学の原点とも言えるゲーテ『若きウェルテルの悩み』の恋愛が世界のすべてを構成している点と語ったのに倣って、韓国語訳『森』を純文学に位置づけしようと腐心していたことと推定される。この点は同時期に中国瀋江版が『森』をポルノ小説として売り出していたことと対照的であろう。また柳訳版第一版では緑が丁寧語でワタナベに話しかけているのに対して、第三版ではため口に変更されるなど、多くの改変が見られる。この点については第四章で詳しく論じる。

二〇〇八年文学思想社の子会社である文思メディアは任洪彬の翻訳により『森』を出版し、その際には一九八七年日本語原作初版と同じシンプルで強烈な感情を持つような赤と緑の二色の装幀¹⁰を採用し、その帯に「春樹シンドロームを巻き起こした『喪失の時代』オリジナル本」と書き入れた。任は再翻訳の同期を「初めて『ノルウェイの森』に接した時に感じた新しい——今になって読んでいても新しい——感動を自分なりに解釈し、読

者たちと疎通したい」、「一文字一文字見落とさないよう、原作を最大限表現しよう」と試みたと述べている。また「原作を再現するためには何点かに気をつけなければならない」として、それはまず二人称尊敬語の翻訳と、文章に何かをプラスしようという欲望を減らす努力とを挙げている。また訳文には訳注が多く付されており、以前同訳に寄せられた読者のハガキなどによる質問に対する回答も含まれている。このように原作に多大なりスペクトを示した同訳本はわずか二年で七回増刷されたのである。

二〇一三年文学思想社の『森』の著作権が切れ、民音社が同著作権を獲得して、同年九月に「世界文学全集」の一冊として出版した際、翻訳者である梁億寛は「訳者後書き」において「自然体」、「自然的態度」という言葉を使用し、人々が『森』に魅了される原因は主人公の人間が誰にでもある青春時期を自然体で生きており、その自然体のまま生き続けている『森』の主人公たちが人々の記憶を温めてくれる、と述べた¹¹。しかし翻訳の忠実性あるいは翻訳態度に関しては一切触れていなかった。梁は『森』以外、『アンダーグラウンド』（二〇一〇）や『色彩…』（二〇一三）などを翻訳している。同作は刊行後の四ヶ月の間に三回増刷されている。

三. 「異化」と「帰化」—『ノルウェイの森』中韓版本比較

中韓版本比較に際してはアメリカの翻訳理論家ロレンス・ヴェヌティの「帰化」および「異化」に関する翻訳理論¹²を参照したい。藤井省三はヴェヌティ理論を、「帰化」とは、外国語・外来文化の土着化・本土化であり、「異化」とは土着文化・本土文化の外国化とまとめている。すなわち、文学翻訳を行う際に自国の言語習慣により多く従って翻訳をする方法を「帰化翻訳」、自国の言語習慣よりも、原語の習慣を強調し、外国語の表現をより尊重する方法を「異化翻訳」とするのである¹³。本稿においては一九八〇年代から現在に至るまでの中韓両翻訳版本における「帰化」と「異化」との相関現象とその文化的・社会的意味について考察したい。そのために第四章の女性主人公、緑の初登場場面を五十節に分け、各節を直訳、漏れ訳、誤訳、書き換えに分類し、統計的な考察を試みたい。寡聞の限り、「帰化」「異化」の傾向性を判断する方法は確立されておらず、これは「帰化」「異化」傾向をより客観的に評価するための一つの試みである。緑の初登場の

章を選んだ理由は、まず日常生活の対話部分が多く、その中には外来語も多数含まれているからである。比較対象として取り上げるのは下記の『森』版本である。

日本語原作 二〇一〇年一二月初版第六八刷 村上春樹『ノルウェイの森』
講談社

中国語訳

一九八九年七月第一版、一九九〇年四月第二刷『ノルウェイの森』林
少華訳 漓江出版社 (「一九八九林訳」と略す)

二〇〇一年九月『ノルウェイの森』林 少華訳 上海訳文出版社
(「二〇〇一林訳」と略す)

二〇一四年五月第一版、同年十月第二刷『ノルウェイの森』林 少華訳
上海訳文出版社 (「二〇一四林訳」と略す)

韓国語訳

一九八九年六月二十七日第一版第一刷『喪失の時代』柳 柳呈訳 株
式会社文学思想社 (「一九八九柳訳」と略す)

二〇〇一年第三版二〇〇九年八月第三版六二刷『喪失の時代』柳 柳呈
訳 株式会社文学思想社 (「二〇〇一柳訳」と略す)

二〇〇八年初版二〇一〇年八月三十一日初版七刷『ノルウェイの森』任
洪彬訳 文思メディア (「二〇〇八任訳」と略す)

二〇一三年九月第一版、二〇一四年一月九日第三刷『ノルウェイの森』
梁 億寛訳 民音社 (「二〇一三梁訳」と略す)

「直訳」「書き換え」「訳し漏れ」、「誤訳」各分類の基準は下記の通りである。「直訳」は日本語原作の意味をそのまま翻訳・伝達したと判断される部分である。

「書き換え」例：原文とは異なるが、誤訳ではなく意図的な処置と判断されるものを扱う。また原文にない語句が追加されている場合も「書き換え」と判断する。第七節では直線で示すようにヒロイン緑による最初のワタナベへの声かけの文末の言葉「でしょ」を林訳三版は全て「没认错吧(間違っていないよね)」と書き換えている。

第七節：そしてテーブルの端に片手をついて僕の名前を呼んだ。「ワタナベ君、でしょ?」

一九八九林訳：并且一只手拄着桌角，直呼我的名字：“你是渡边君，没认错吧?”（下線部の筆者による再日訳（以下「再日訳」と略す）：間違っていないよね）

二〇〇一林訳：并且一只手拄着桌角，叫出我的名字：“你是渡边君，没认错吧?”（再日訳：間違っていないよね）

二〇一四林訳：并且一只手拄着桌角，叫出我的名字：“你是渡边君，没认错吧?”（再日訳：間違っていないよね）

「誤訳」例：原文の意味を誤読して訳したと判断されるもので、波線で示す。第三節では「無口な夫婦とアルバイトの女の子三人」を一九八九林訳と二〇〇一林訳は「無口な夫婦と三人のアルバイトの女の子」と誤訳している。また2013年梁訳では「窓際の席に一人で座って...」を「窓際の一人席」と誤訳している。その他、林訳三種においては下線部のよう書き換えもあり、このような場合は「誤訳」と「書き換え」両方に加算する。

第三節：無口な夫婦とアルバイトの女の子三人で働いていた。僕が窓際の席に一人で座って食事をしていると、四人づれの学生が店に入ってきた。

一九八九林訳：店里干活的是一对沉默寡言的夫妇和三个打零工的女孩。我找个靠窗的位置坐下，一个人吃着饭。这工夫，进来一伙学生，四个人，（波線部再日訳：無口な夫婦と三人のアルバイトの女の子）、（下線部再日訳：一グループの学生が入ってきて、四人で）

二〇〇一林訳：店里干活的是一对沉默寡言的夫妇和三个打零工的女孩。我找个靠窗的位置坐下，一个人吃着饭。这工夫，进来一伙学生，四个人，（波線部再日訳：無口な夫婦と三人のアルバイトの女の子）、（下線部再日訳：一グループの学生が入ってきて、四人で）

二〇一四林訳：店里三个干活的是一对沉默寡言的夫妇和打零工的女孩。我找个靠窗的位置坐下，一个人吃着饭。这段时间里，进来一伙

学生, 四个人, (波線部再日訳: 無口な夫婦とアルバイトの女の子) (下線部再日訳: グループの学生が入ってきて、四人で)

一九八九柳訳: 무뚝뚝한 부부와 아르바이트하는 여자아이, 그렇게 셋이서 일하고 있었다. 내가 창가 좌석에 앉아 식사를 하고 있으려니까 네 명의 학생 일행이 안으로 들어왔다.

二〇〇一柳訳: 과묵한 부부와 아르바이트하는 여자애, 그렇게 셋이서 일하고 있었다. 내가 창가에 혼자 앉아 식사를 하고 있을때 학생들 네 명이 가게로 들어왔다.

二〇〇八任訳: 과묵한 부부와 아르바이트하는 여자애, 그렇게 셋이서 일하고 있었다. 내가 창가에 혼자 앉아 식사를 하고 있을때 학생들 네 명이 가게로 들어왔다.

二〇一三梁訳: 거의 말이 없는 부부와 아르바이트 여학생 셋이서 일하는 레스토랑이었다. 내가 창가 자리 일인석 앉아 식사를 하는데 학생 넷이 들어왔다. (波線部再日訳: 窓際の一人席)

「訳し漏れ」例: 本稿では発話主体の省略と長文の省略を「訳し漏れ」と判断する。第二七節の林訳では二重下線で示すように、「と僕は言った」や「と彼女は言った」の部分が省略されている。一方、一九八九柳訳では「と僕は言った」を省略し、「と彼女は言った」を「하고 그녀는 콧소리를 냈다(と彼女は鼻にかかった声を出した)」と「ふうん」という擬声語に対する説明を付加した。

第二七節: 「ねえ、あなた嘘つく人じゃないわよね」

「まあできることなら正直な人間でありたいとは思っているけどね」と僕は言った。

「ふうん」と彼女は言った。

一九八九林訳: “我说, 你该不是撒谎的人吧?”

“哦, 可能的话, 我还是要当一个诚实的人。”我说。(二重下線部再日訳: と僕は言った。)

“唔—”

二〇〇一林訳: “我说, 你该不是撒谎的人吧?”

“哦，可能的话，我还是要当一个诚实的人。”我说。(二重下線部再日訳：と僕は言った。)

“唔－”

二〇一四林訳：我说，你该不是撒谎的人吧？”

“呃，可能的话，我还是要当一个诚实的人。”我说。(二重下線部再日訳：と僕は言った。)

“唔－”

一九八九柳訳：“저, 거짓말하는 거 아니죠?”

“그래, 되도록이면 정직한 인간이고자 하지만.”

“흐음” 하고 그녀는 콧소리를 냈다

再日訳：“ねえ、嘘ついていませんよね？”

“そう、出来るなら正直的な人間でいようとしてるけど。”

“ふうん”と彼女は鼻にかかった声を出した。

二〇〇一柳訳：“봐요, 거짓말하는 거 아니지?”

“그래, 되도록이면 정직한 인간이 되려고 노력하는 편이니까.”

“아, 그래” 하고 그녀는 말했다

再日訳：“ねえ、嘘ついていないよね？”

“そう、出来るなら正直的な人間になろうと頑張ってるほうだから。”

“あ、そう”と彼女は言った。

二〇〇八任訳：“저, 그쪽은 거짓말 따위 하는

사람은 아니지?”

“음, 되도록 정직한 인간으로 살려고 노력하고 있는데.”라고 나는 말했다

“흞.” 하고 그녀는 말했다

再日訳：“ねえ、あなた嘘なんかつく人じゃ

ないよね？”

“うん、出来るなら正直的な人間として生きていこうと頑張ってるけど。”と僕は言った。

“ふうん”と彼女は言った。

二〇一三梁訳：“저기, 너 거짓말하는 사람

아니지?”

“가능하면 정직하게 살고 싶어 하는 사람이야.”

“그렇다 이거지.”

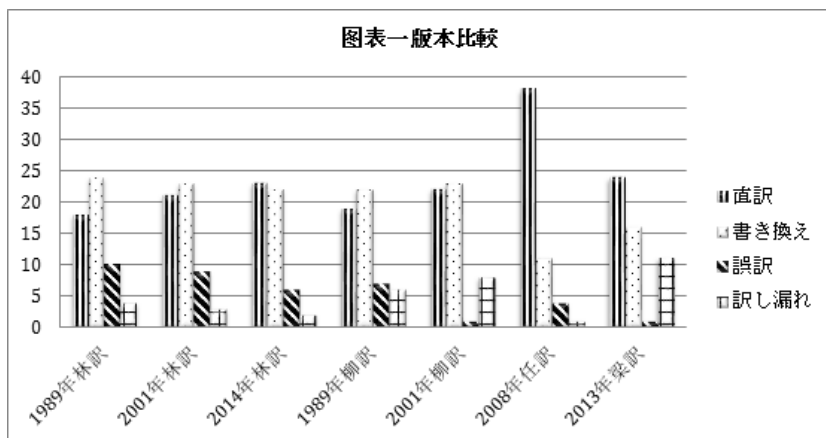
再日訳：“ねえ、あなた嘘なんかつく人じゃ

ないよ?”

“可能なら正直に生きていきたい人間なの。”

“そうだよね。”

上述の判断基準により『森』第四章の緑の登場場面を五十節に分類して得られた結果は図表一の通りである。

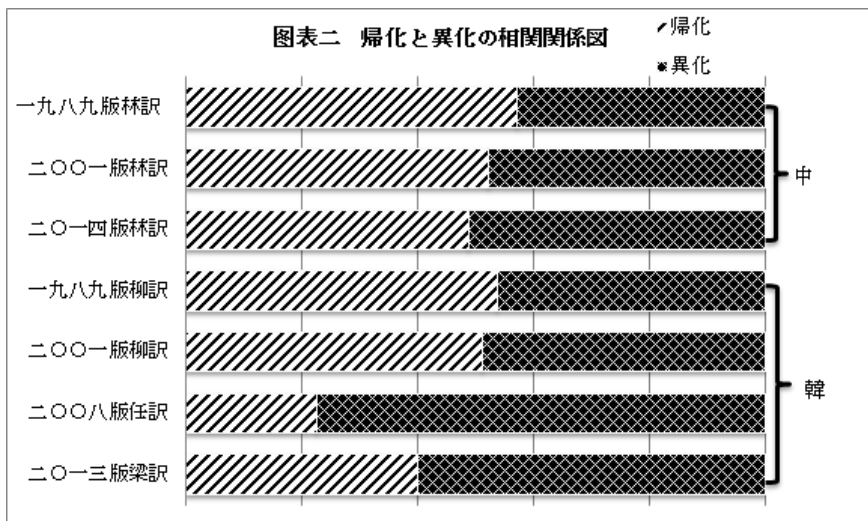


四. 東アジアにおける「異化」と「帰化」

図表一が示すように、一九八九年の中韓両訳本では異化的な直訳はそれぞれ全五〇節のうち、一八節と一九節を占め、三六%と三八%で共に三〇%台に留まっているのに対し、二〇一四年の林訳では二十三節の四六%に、二〇〇八年の任訳では三十八節の七六%に上昇している一方、帰化的な意識（書き換え）がなおも二二節の四四%と一一節の二二%を占

めている。

この二十年以来中国では、村上翻訳の帰化・異化に関する議論が続いており、また第二章で述べたように中韓両国の訳者は翻訳過程において訳漏れと誤訳を避けるべくより多くの努力を払っており、それに伴い直訳の比率が上昇している。翻訳者は原文の再現に力を注いでおり、かつての韓国語訳では書き換えが目立ったのに対し、梁訳はこの過去の慣行を改善してはいるものの、中国語訳に比べると書き換えがやや多いことは興味深い。次に直訳から意識への変換について、本稿では直訳—異化、意識—帰化と分類し¹⁴、異化と帰化との相関関係図の作成を試みたい。その結果は図表二である。



図表二が示すように、一九八九年から現在まで中韓両国とも村上文学の翻訳は、直訳的な異化傾向を強めている。しかし、韓国語訳は二〇〇八年の任訳で異化が八〇%占めたが、二〇一三年には六〇%に減少している。これは中韓両国では村上作品翻訳の質をめぐる議論の盛り上がり方には顕著な相違がある。林訳に関する討論が中国で大きいな話題となったのは二〇〇七年に起きた「林・藤井“論争”」であろう¹⁵。二〇〇七年八月二〇日林少華が自らのブログにエッセイ「林訳村上〇分(林訳村上〇点)！」

を発表して、藤井の『村上春樹のなかの中国』（二〇〇七）の村上文学の中国語訳に対する批評に反論した。二〇〇八年三月中国・北京師範大学で「村上文学的中文翻訳与接受（村上文学の中国語翻訳と受容）」シンポジウムが開かれ、林と藤井は村上文学の中国語訳の文体について議論を行い、その翌年東京大学開催の「東アジアが読む村上春樹」シンポジウムにおいても、林訳をめぐる議論が盛り上がった。中国の日本語・日本文学研究の権威的学術誌「日語学習与研究」は二〇〇九年に二度にわけて村上文学の翻訳に関するコーナーを設け、同論争に関する論文を合計六点掲載した。中国学術情報データベース（CNKI）で「村上春樹・翻訳」を主題として検索したところ修士・博士論文が一八九点、学術誌論文が一三五〇点ヒットした¹⁶。また『1Q84』が施小焯訳で出版された際、豆瓣網でも大きな議論が起き「施訳か林訳か」という論争にまで広がったという¹⁷。このような論争が異化翻訳傾向を一層促進したのではあるまいか。一方、韓国では多くの翻訳版本があるにも関わらず、版本比較の学術研究は多くなく、韓国の中央国立図書館サーバーと韓国教育学術情報院（RISS）での調査によると、主に崔在哲韓国外国語大学教授、鄭仁英（同校で博士号取得）が執筆しているのみである¹⁸。

また、韓国の読書サイトネイバー・ブックの読者レビューでは柳訳『喪失の時代』に関しては二三二二点、任訳『森』に関して四十七点（上・下）、梁訳『森』二八一点¹⁹が寄せられるなど多くの読者が『森』について感想を書いているが、版本の賛否に関するものはほとんどなく、読後感が多かった。その例を一つずつ挙げたい。

ユーザー desiremjh（二〇一五年四月二八日）：現在読んでも良かったが、迷うことの多かったもっと若かった時読めば良かったと思う。二十歳のワタナベと彼の周りの主人公を通して、自分の若かった日々の姿を思い出し、感動した。

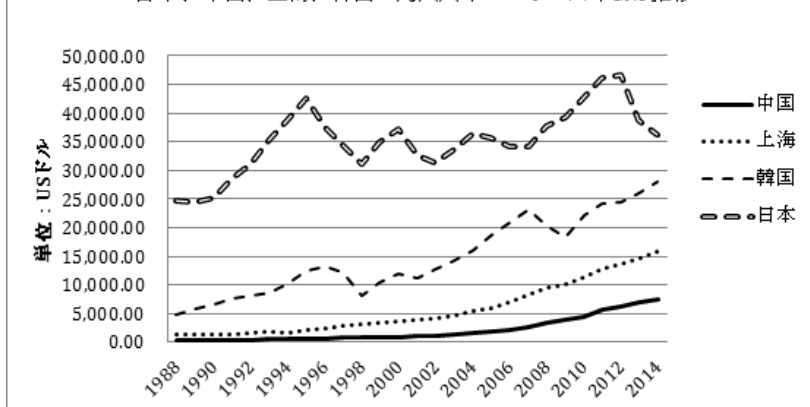
ユーザー blooming_hm（二〇一四年一月一三日）：『喪失の時代』で二度読み、最近『ノルウェイの森』でもう一度読んだ。高校時代や、二、三年前に読んだのと違った。…乾燥した文体で冬の夜に読むのがもっとも相応しい。最後緑に電話をかけて思いを伝えようと

するワタナベの心情は今になって聞こえた。

ユーザー *doyuny1* (二〇一三年八月二三日) : ... ハルキのことが好きなファンであれば必ず所蔵すべき本である。ハルキの作品の中で唯一三回読んだ作品で、それほど私には大切な思い出がある作品である。... 新訳で会うハルキの作品、とても楽しみにしている。

図表三は一九八八年から二〇一四年までの日本、中国、上海、韓国の一人あたり GDP²⁰ (単位：米ドル) である。韓国は一九八八年オリンピック開催以来高度経済成長を遂げて先進国入りを果たし、一九九四年には GNP が一万ドルを超え、二〇〇六年には二万ドルを超えた。一方中国は改革開放以来、特に一九九〇年代改革開放の再加速を経て経済成長を成し遂げ、GNP 高い伸び率を示している。この経済成長が林訳に反映されているようすで、例えば緑がワタナベの家は金持ちかと聞いた時、彼は実家は普通の家で金持ちでも特に貧乏でもないと話した後に、車はトヨタカローラを持っていると告げる。カローラはトヨタの代表的な車種で、日本において最も普及した大衆乗用車シリーズの一つである。初代カローラの発売時期一九六六～七〇年は、小説の背景である六〇年代末の時代と重なり、「普通の家」のワタナベ家にふさわしい。中国では二〇〇四年にトヨタと中国第一汽車集団会社が連携し中国産カローラ (中国語「丰田花冠」) が生まれたという。このカローラは一九八九年の漓江版『森』では「有丰田, 有皇冠」(再日訳: トヨタがあって、クラウンがある) と誤訳されたが、二〇〇七年訳文出版社版「村上春樹文集」では「丰田花冠」へと訂正されている。韓国では二〇一一年からカローラの販売が始まったが、その名は柳訳と任訳の「카롤러」(再日訳: カロルロ) ではなく「코롤라」(再日訳: コロルラ) であり、二〇一三年の梁訳で「코롤라」(コロルラ) と翻訳された。このように中韓両国では経済成長により、小説のディテールに対する理解も深まっており、それは両国の新興中産階級の若者に「普通の家」の息子という主人公に対するより深い共感呼び起こしていることであろう。

図表三
日本、中国、上海、韓国一九八八年～二〇一四年GNP推移



最後に、意識に関して中韓両国語を比べると、韓国では村上文学受容初期から訳文補充やため口を丁寧語に変更するなどの帰化が行われていることがわかる。例えば第九節のように、一九八九柳訳では緑の話し方をすべて丁寧語に置き換えたが、二〇〇一柳訳は原作のため口に戻したものの、原文にはない説明的な一文「性格がとても活発であるように、彼女は最初から親しげなため口で話をはじめた」が追加された。原作ではワタナベと同様に中産階級で生まれた淑やかな直子と、下町生まれの明るくポジティブな緑を対照的に描きだし、二人の高校生活や服装などの面からもその差を示唆している。さらに口調や喋り方からもわかるように、緑は最初からため口でワタナベに声をかけている。『森』の舞台である六〇年代末の日本、大学に進学する女子は圧倒的に中産階級以上のものが多く、緑のような女学生は少なかったのではあるまいか。ため口設定は緑のキャラクターを一層引き立てているのであろう。そして、同作が韓国で受容された一九八〇年代末の韓国は飛躍的な経済発展を遂げつつあったが、社会はまだ保守的で、ため口で同級男性に話しかける女学生の存在は許されなかったのであろう。その点を配慮して柳は緑の話し方をすべて丁寧語に改編したほか、直子やハツミの言葉まで丁寧語に書き換えている。しかし、この帰化翻訳

はキャラクターの性格をも改編してしまうものであり、最初からワタナベと親しくなろうとする緑の気持ちは十分に表現できなかったのではあるまいか。二〇〇〇年代に入り、韓国では社会的規制などが少なくなりつつあり、柳訳では女性登場人物の話し方を原作に合わせたものの、それでも違和感を与えないよう、ため口の後に原作にはない一文を追加したのである。しかし二〇〇八年の任訳や二〇一三年の梁訳に至ると原文をそのまま直訳した点からは、韓国社会が水平的な男女関係に寛容的になっていく時代の流れが感じられる。

第九節：「ちょっと座ってもいいかしら？それとも誰かがくるの、ここ？」

一九八九柳訳：「잠깐 앉아도 될까요? 아니면 누구 올 사람이 있나요?」

(再日訳：ちょっと座ってもいいですか?それとも誰かくる人いるんですか?)

二〇〇一柳訳：“잠깐 앉아도 될까? 아니면 누구 올 사람이 있어, 여기” 성격이 무척 활발한듯, 그녀는 처음부터 허물없는 반말로 대화를 시작했다.

(再日訳：“ちょっと座っていい?あるいは誰かくる人いる、ここへ?” 性格がとても活発であるように、彼女は最初から親しげなため口で話をはじめた。)

二〇〇八任訳：“잠깐 앉아도 돼? 아니면 누구 올 사람 있어, 여기?”

(再日訳：「ちょっと座っていい?あるいは誰か来る人いる、ここ?」)

以上、『ノルウェイの森』中国語・韓国語翻訳の帰化・異化傾向の比較研究により、同作の四半世紀の翻訳史においても、両国語共に「異化翻訳法の法則」を示している点、そしてこの異化翻訳化が両国の高度経済成長および両国読者の『森』へのより深い共感度と密接な関係を有している点、しかし翻訳研究のあり方やジェンダーなどの学術的文化的環境の差違により、両国がそれぞれ独自の異化翻訳傾向を示している点を明らかにすることができた。今後は翻訳研究を通じて、日中韓三国における村上文学読書の異同およびそれがもたらす東アジア・アイデンティティの形成について考察したい。

最後に拙い感想を述べさせていただくならば、最近数年間、日中・日韓の政治的関係は不良で、互いに「嫌中・嫌韓」、「嫌日」の情緒を抱く国民が増えていることは残念なことである。これに対し、村上文学の中韓翻訳の隆盛と変容、そこから導き出せる「異化翻訳化の法則」は、文学及び翻訳による相互理解の拡大と深化という希望の所在を力強く指し示すものと言えよう。

- 1 藤井省三『村上春樹のなかの中国』朝日新聞社 二〇〇七年
- 2 藤井省三「村上春樹の中国語訳 — 日本文化の土着化と中国本土化の変革」『日語学習と研究』二〇〇九年一月
- 3 『東京大学中国語中国文学研究室紀要』第十八号、二〇一六年一月
- 4 藤井省三『村上春樹のなかの中国』朝日新聞社 二〇〇七年、徐子怡「『ノルウェイの森』から墨脱の『蓮花』へ」『東方学』第二百二十七輯 東方学会 平成二十六年一月号 一一六頁
- 5 記事：「村上新著《没有女人的男人们》将出版」二〇一四年一二月二四日 <http://book.sohu.com/20141224/n407249177.shtml>
- 6 林璋『文本的翻譯与評說 - 以林少華訳《挪威的森林》為例』日語学習と研究 二〇〇九年第五期 総一四四号
- 7 同注1、一五二頁
- 8 村上春樹著 任洪彬訳『ノルウェイの森・下』（二〇〇八年 文思メディア出版社）収録の訳者あとがき（同書二九七頁）
- 9 ノ・ビョウシキ訳（サムジン企画、一九八八年）、鄭成浩訳（但し訳題

は『蜚』成正出版社、一九八九年）柳柳呈訳（但し訳題は『喪失の時代』、文学思想社、一九八九年）、イ・ミナ訳（東和出版社、一九九三年）、キム・ナンジュウ（モウム社、一九九三年）、キム・ナンジュウ訳（漢陽出版社、一九九七年）、許虎訳（ヨルリム園、一九九七年）、イム・ホンビン訳（文学思想社、二〇〇八年）、梁億寛訳（文思メディア、二〇一三年）

10 「『ノルウェイの森』の秘密」文芸春秋一九八九年四月号

11 梁億寛訳『ノルウェイの森』（二〇一三年）四九一頁

12 Lawrence Venuti 《The Translators Invisibility》一九九五年 二〇頁

13 藤井省三『故郷／阿Q正伝』光文社 二〇一〇年、訳者あとがき 三二六頁

14 「直訳—異化翻訳」、「意識—帰化翻訳」の分類に関する討論は多くなされてきた。代表的なのは楊炳菁「文学翻訳と翻訳文学—中国大陆における村上文学の翻訳と受容をめぐる」（二〇〇九年）、于桂玲「中国版『ダンス・ダンス・ダンス』の版本研究—村上春樹の翻訳における受容と変容」（二〇〇九年）がある。

15 同論争が起きる前も林訳に関する批判はあったが、林による反論はなかった。例えば謝建梅「『ノルウェイの森』について—中国語訳におけるミス・誤訳」（二〇〇五年）、園田延枝「中国に於ける村上春樹受容—翻訳者・林少華の評価を中心にした考察」（二〇〇五年）などがある。

16 二〇一六年一月一五日検索

17 藤井省三「中国における村上春樹受容の第二の転換期」『新潮』二〇一一年三月号二〇四頁

18 主な論文に崔在哲「村上春樹文学と韓国 — テキストと翻訳・受容」(『日本研究』第三四号 韓国外国語大学日本研究所 二〇〇七)、鄭仁英「村上春樹小説の韓国語翻訳研究」(韓国外国語大学、二〇一二)などがある。論文題名は筆者による日訳。他に、楊政亜「韓国における日本文学の受容－村上春樹『ノルウェイの森』を中心に」(次世代人文社会研究第三号、二〇〇七)などがある。

19 同結果は二〇四年九月ネイバーブックサイト開設から二〇一六年一月一五日零時までのデータである。

20 出典：世界経済ネタ帳、上海統計局データベース